

十月の行事

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
	中二軽井沢総合的学習(11/1) 高二模試	宗教研究会⑥	中間試験 モアレ検査(中一) 情報特別授業(高一)		中間試験	定期試験に係る休日	中間試験	中間試験(高一)	即位礼正殿の日		私立中高池袋進学相談会(サンシャイン文化会館)				星美彩閉会式・片付け・清掃 午後〜授業	星美彩振替休日(10/13)	体育の日 入試ファースト越谷会場	星美彩 マードレとの集い 中学説明会・高校説明会 試験時間割発表	星美彩 中学説明会・高校説明会	星美彩開会式・準備	星美彩 準備(午後)	高三模試⑥	中高合同朝礼	ロザリオの聖母の記念日	英語検定試験(第2回一次)	中三保護者会 コート採寸 父母の会クラス役員会	中高合同朝礼			都民の日

十一月の主な行事予定

30 25 18 16 14 14 9 8 7 6 5 3 1  
 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日  
 18 17  
 日 日  
 中二 軽井沢総合的学習帰校  
 第二回英語検定試験(二次A)  
 追悼ミサ  
 中学総合学力調査  
 教職員研修会のため午前中授業  
 Srフェイス視察訪問 高一模試  
 中一遠足  
 大学模試授業 数検②  
 中三修学旅行  
 保護者会(個人面談 午後)  
 父親対象宗教講話  
 中三振休  
 試験時間割発表 無原罪の聖母徳の花開始  
 父母の会定例会④

主体的対話的で深い学びの育成

尾崎 正靖

文部科学省は、社会の変化を見据えて教育改革を進めてきました。知識の習得から知識の活用へと授業の焦点を移していくなかで、「どのように学ぶか」という側面が注目されています。「どのように学ぶか」を重視しながら学習の改善を行う際、軸となる考えが「主体的対話的で深い学び」になります。

本校でも、授業メソッド促進委員会を中心に授業研究が行われてきました。社会科も、授業改善を進めています。ここでは高校一年生・日本史Aの授業を事例に「主体的対話的で深い学びの育成」における「主体的な学びの育成」に絞って考えてみたいと思います。日本史Aの授業では、授業改善のなかで、一般的な講義とは異なる形式を採用しています。生徒は、予習で教科書を読み、知らない語句などを調べ、大まかな流れを要約してから授業に臨みます。その上で、授業中はi-Padを活用し、グループで協働しながら、教師の与えた複数の問い(因果関係や背景の説明など、おおよそ五〇字〜一〇〇字の記述問題)に答えていきます。五〇分間の授業時間において、重要語句の確認や教師からのポイント説明など、知識の習得に使用する時間はおよそ十五分。残りの三十五分は、対話しながら問いに答える知識の活用に充てています。

知識の活用に比重を置いた授業の実施を通して感じていることは、「主体的な学びの育成」には、大前提として、主体性を発揮できる授業づくりが不可欠だということです。当たり前のことを言っているように感じられるかもしれませんが、これまでの学校教育では、これは私自身への自戒も含めてですが、知識の習得を主な目的とする講義型授業の多くの場面において、生徒の主体性を奪ってきた気がするのです。

日本史Aの授業中、三十五分間の知識の活用では、必ずしも教師からの問いに答えることを強制しているわけではなく、自己の素朴な疑問をグループ内で共有し、積極的に脱線して探究することを推奨しています。歴史の学習に関しては、教師が設定した問いとは一見関係がなさそうでも、自分では些細なことだと思ふアイデアや疑問点を追究することが、急がば回れ、包括的な理解の深化につながることも多いのです。また、一つの歴史的事象は、捉え方(依拠する史料)によっても事実が異なるので、教師の設定した問いが、単元理解への唯一の道筋とも限りません。

しかし、多くの生徒は与えられた問いに答えることを最重要課題とみなし、自然に浮かんだアイデアや疑問点があっても、仮説を立てて検証することや、解決のためのリサーチに進むことはありません。素晴らしい気づきを称賛しても、その脱線を是非続けるように促しても、残念な事に、生徒は教師があらかじめ敷いてしまった問いというレールに戻ってしまいます。

その時間に学ぶ内容とその道筋が決まっていて、教師の講義を静かに聞いて知識を習得し、試験でその道筋を再現することで良い成績が得られる。このような授業と成績評価が、知らず知らずのうちに生徒の主体性を奪っていなかったか、自省しながら授業改善をはかっています。最低限押さえないければならない教科書内容とのバランス、匙加減は難しいですが、「主体的な学びの育成」のためにも、まずは生徒が主体性を発揮できる授業づくりを続けていきますので、引き続き星美学園の教育へのご理解とご協力のほど、心よりお願い申し上げます。